

「アフリカ史叙述の方法にかんする研究」(2012年度第3回研究会)

日時：2013年3月28日(木) 13:00-18:00

場所：本郷サテライト7階および5階会議室

内容：

第1部 (13:00～14:15 7階会議室)

『アフリカ史研究入門』(仮) について

第2部 (14:30～18:00 5階会議室)

書評：小倉充夫著『現代アフリカと国際関係—国際社会学の地平』(有信堂高文社、2012年)

書評者：武内進一(アジア経済研究所)、永原陽子(AA研)

第1部 『アフリカ史研究入門』(仮) について

本共同研究の成果として刊行を予定している『アフリカ史研究入門』(仮)の内容と方向性について議論し、当初想定していた狭義の「研究入門」に加え、アフリカ史を世界史の中にどのように位置づけて描くかについての内容を充実させ、「世界史教育」にも資する内容とすることが合意された。

第2部 書評：小倉充夫著『現代アフリカと国際関係—国際社会学の地平』

本書の内容につき、二人の評者がコメントし、著者たちからの応答を得るとともに、参加者を含めた質疑が行われた。とくに、本書全体を貫く国際関係と地域研究とを結合させたアフリカ研究の視点と方法、また国際研究と地域研究における歴史的視点の重要性について論点が集まった。